

今から一年前
汝水のほとりに
泊まった
夜のこと

李徴：

ふと目を
覚ますと
戸外で誰かが
我が名を
呼んでいる

山月記

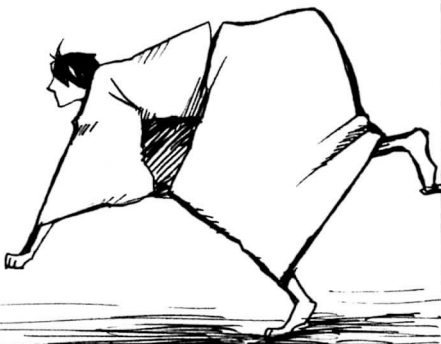
声は闇の中から
頻りに自分を招く

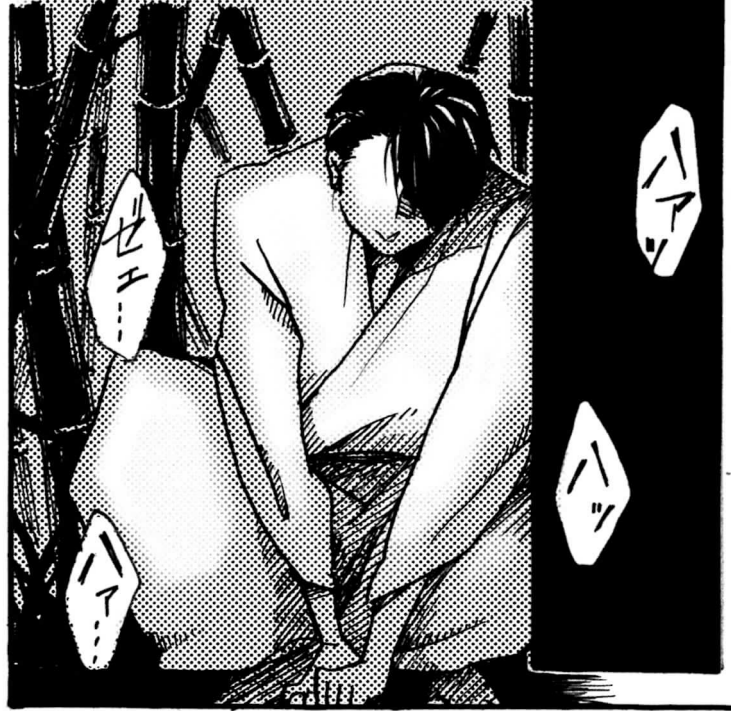
高木舞

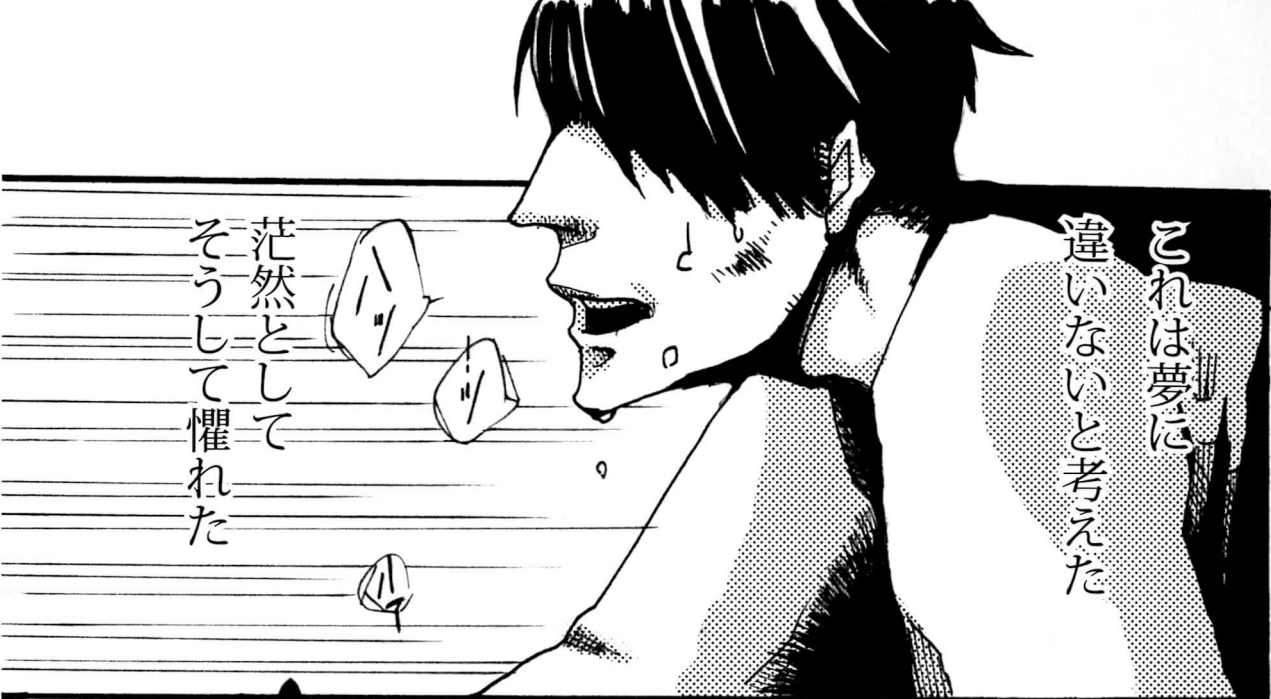
李徴

自分は
声を追うて
走り出した

知らぬ間に
左右の手で
地を攫んで
走っていた

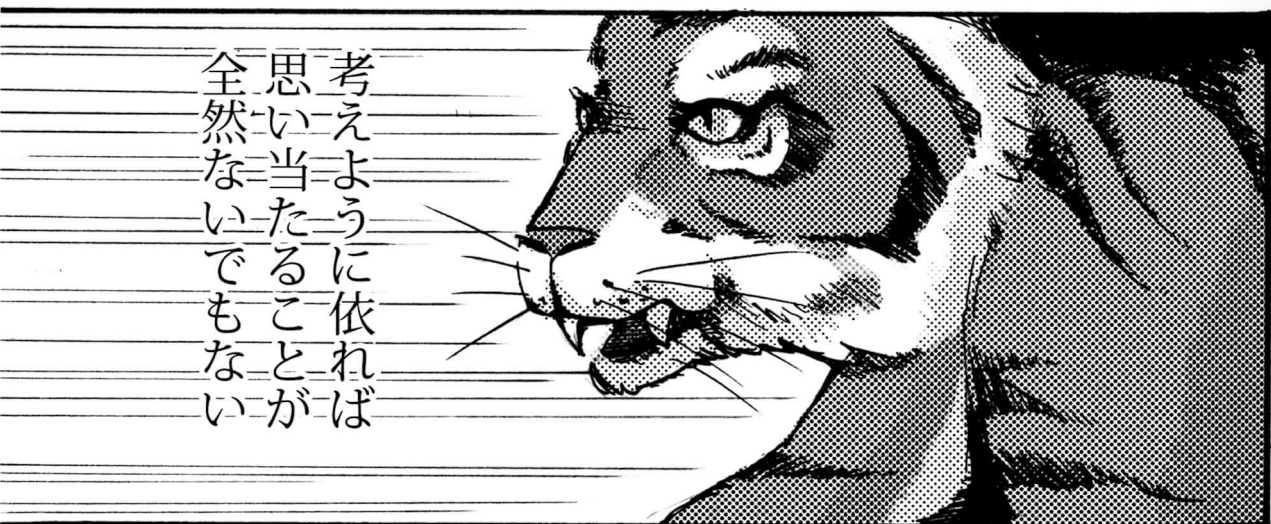
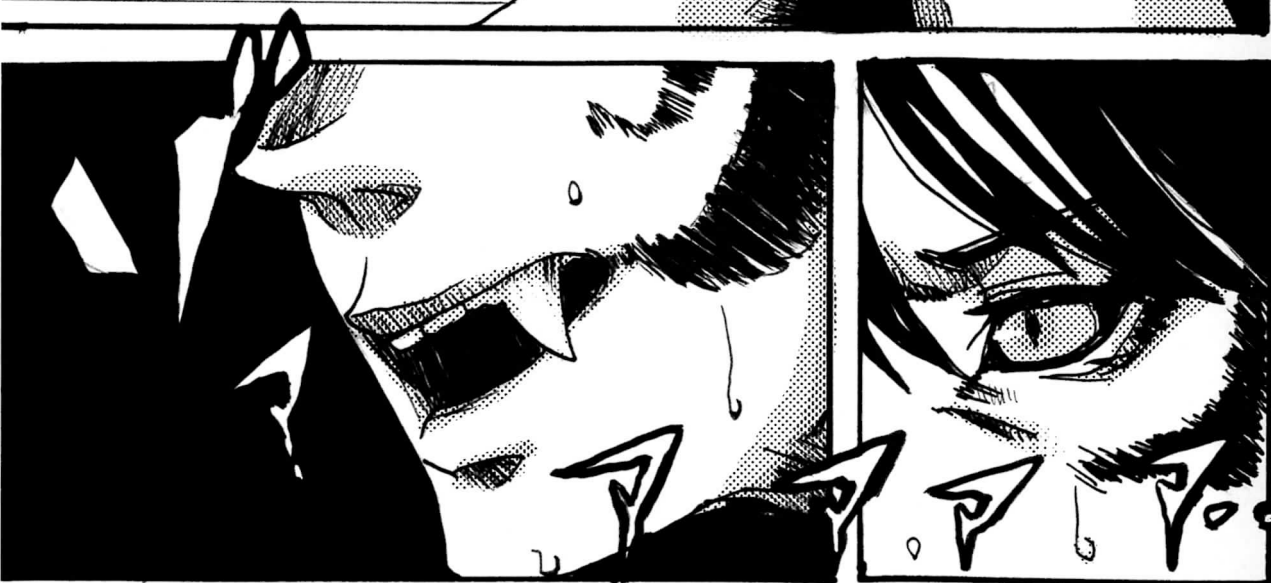






これは夢に
違いないと考えた

茫然として
そうして懼れた



考えように依れば
思い当たることが
全然ないでもない

それは己の臆病な自尊心と
尊大な羞恥心との所為である



オ
オ
オ
オ
オ

虎は
既に白く光を失った
月を仰いで

二声三声
咆哮したかと思うと
又、元の叢に躍り入って
再びその姿を見なかった

